

●事例紹介●

金沢工業大学における学長表彰・褒賞  
 ～褒めの教育の実践～

浦村 豊  
 (金沢工業大学学務部修学相談室長)

一 はじめに

金沢工業大学の教育の中で、画期的なものに「褒めの教育」がある。この教育は、昭和五九(一九八四)年、当時の第二代学長京藤睦重先生が約半世紀にわたる長い教育者としてのご経験から、新しい人材育成の一環として私財の一部を提供され設置された我が国においても独自の褒賞制度である。爾来、歴代の学長はその衣鉢を継ぎ、学生諸君のエンカレッジを推進してきている。そして、その表彰規定には大学院と学部それぞれのルールが定められ、担当教員および課外活動などを通じて学生と接する機会のある

る職員の申請に基づき、優秀な成果を修めた学生に対して学長が表彰・褒賞を行う。表彰・褒賞の対象項目は学業成績、受講態度などをはじめとして、課外活動を含め学生生活全般にわたっている。

この制度は、教職員が学生の長所を発見しようとする意識を高めることに、また、学生自身は「先生、職員は自分を見ている、認めてくれてる」という意識につながると共に、学生は褒められることよって素直に喜び、自らの研鑽に意欲を持つようになることを目的としている。

金沢工業大学では平成七年度の教育改革以来、三学期制を採用し、春学期、秋学期、冬学期のそれぞれに学長褒賞の推薦と授与を実施してきている。激励の意味を持った褒

めの教育は、機を逸することなく行わねばならないこと、全ての学生にとって身近で少し背伸びすれば手が届くこと、推薦は全ての教職員が可能である制度として運営されている。また、学長表彰については、時期に関係なく授与する機会が生じた場合には随時授与式を開催すると共に、年度末の学位授与式においても実施されている。

二 学長褒賞の規程について

(一) 金沢工業大学における学部学長褒賞規程

第一条 本学の教育方針に基づき、正課及び正課外の活動において、優秀な成績を修めた本学学部在学学生(専攻科生を含む)に対し学長褒賞を行う。

第二条 前条の褒賞を受ける学生(以下「褒賞学生」という)は、表1に掲げる項目の一つに該当するものから選ばれるものとする。

第三条 褒賞学生は、本学教職員の推薦により、学長が決定する。推薦者は、所定の推薦書を提出するものとする。

第四条 褒賞学生には褒状及び副賞を与える。

表1 学部学長褒賞項目

大項目	中項目	小項目	コード
1 教育実践面においての対象	1. 学業成果	1. 卒業時の成績評価で修得科目の80%以上の科目にわたりA以上の評価を得た者	C
		2. 1学期間に5科目以上修得し、その成績評価において、修得科目の80%以上の科目にわたりA以上の評価を得た者	D
		3. 各授業科目で特に成績優秀と担当者が認めた者	F
		4. 成績向上が顕著な者	G
	2. 受講態度	1. 講義・実験・実習・演習・レポート等の取り組み方が良く他の模範となる者	I
	3. 自学自習	1. 資格を取得する等、自己啓発に精励した者	W
		2. コンテスト等において、優秀な成果をあげて本学の名声を高めた者	X
2 学生生活面においての対象	1. クラブ活動	1. 学友会活動(個々の行事を含む)等で特に貢献のあった者	M
		2. 課外活動で全国大会に出場する等顕著な成績をおさめた者	N
		3. 4年間を通じてクラブに在籍し、そのクラブに特に貢献のあった者	P
	2. 生活全般	1. 本学学生として模範的行為のあった者	R
		2. 学生生活において、本学の名誉を高めた者	S
		3. 心身環境等の悪条件に打ち勝ち卒業した者	T

※但し、上記学部のコードDについては、1年次の春学期は学長褒賞対象としない。

第五条 褒賞を行う方式、時期等については、学長がその都度定める。

第六条 褒賞学生のうち、特に優秀な成績を修めた者は、学則第五三条による表彰の手續をする。

(二) 金沢工業大学における大学院学長褒賞規程

第一条 本学の教育方針に基づき、優秀な成果を修めた本学大学院生に対し学長褒賞を行う。

第二条 前条の褒賞を受ける学生（以下、「褒賞学生」という）は、表2に掲げる項目の一つに該当する者から選ばれらるものとす

第三条 褒賞学生は本学教職員の推薦により、学長が決定する。

表2 大学院学長褒賞項目

項目	内容	コード
1. 教育実践面における対象	1. 各授業単位で特に成績優秀と担当者が認めた者	1
	2. 資格試験等に挑戦し、本学の声価を高めた者	2
	3. 教育補助員として、著しい功績のあった者	3
	4. 専攻内で学位論文の内容が優秀と認められた者	4
2. 学術研究面における対象	1. 学協会において、すぐれた研究成果を発表した者	5
	2. 学協会誌等に、すぐれた研究成果を発表した者	6
3. 生活全般	1. 学生生活において、本学の名誉を高めた者	7

第四条 褒賞学生には褒状及び副賞を与える。  
第五条 褒賞を行う方式、時期等については、学長がその都度定める。  
第六条 褒賞学生のうち、特に優秀な成果を修めたものは、学則第四九条による表彰の手續をする。

三 学長褒賞の推薦と褒状引渡しについて  
学長褒賞の推薦については、先に述べたように激励の意味をもって褒めることは機を逸することなく行わねばならないことや、全ての教職員が推薦できる制度として運営されなければならぬ点を配慮し、平成一六年度秋学期から教職員に申請しやすい学内LANを利用したWeb画面より申請できる「学長褒賞推薦システム」の運用を実施している。

このシステムの運用を機に、申請の増加が当初の見込み以上であった。また、以前は対象学生を一同に集め、学長から代表者に褒状を渡していたが、全ての学生の都合に合わすことができず出席率が悪い状況が続いたことから、現在は学期初めのオリエンテーション時に期間を設けて身近

な教員からの引渡しを行う方法に変更した。この結果、推薦した教職員やクラス担当教員からの激励も直接聞かれるようになり、引渡し率も向上した。また、クラスメートが授賞する姿を身近に確認できるため、次回には、授与されるように努力する学生も増加したように見受けられる。

四 学長褒賞授与状況

表3～表4には、年度別授賞件数、並びに褒賞項目と学

【推薦期間】  
学期ごとに推薦期間を設定し募集する

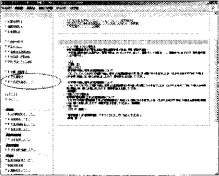
【推薦方法】  
「学長褒賞推薦システム」にアクセスしパソコンから入力する

【引渡し期間】  
学期ごとのクラス別オリエンテーションから二週間

【引渡し方法】  
成績評価を得た学生（理由コードD）  
…クラス担当教員  
推薦による学生（理由コードD以外）…推薦者

【学生周知方法】  
修学相談室ホームページ上で対象者を発表

※学生ポータル（個人ホームページ）の共通告知で発表方法を案内  
※修学相談室掲示板に発表方法案内ポスターを掲示



入力トップ画面

年度別授賞件数（平成一六年度）について学部、大学院別に示す。

五 学長表彰の規程について

(一) 金沢工業大学における学長表彰規程

第一条 本学の教育方針に基づき、正課及び正課外の活動において、特に優秀な成果を修めた学部学生（専攻科学生を含む）又は大学院学生（博士後期課程学生を除く）に対し学長表彰を行う。

表3 年度別授賞件数

学期	延べ件数 (件)			
	H13	H14	H15	H16
春学期	724	866	936	1,106
秋学期	1,100	1,137	1,344	1,793
冬学期	1,178	1,915	2,099	2,593
合計件数	3,002	3,918	4,379	5,492

第二条 表彰を受ける学生（以下「表彰学生」と言う）は、次のとおりとする（表5）。

第三条 表彰学生は部長会の推薦により、教授会又は大学院委員会で決定する。

第四条 表彰学生には表彰状及び副賞を授与する。

第五条 表彰を行う時期等については、学長がその都度定める。

(2) 大学院

褒賞項目 (大学院)	学期	修士 1年	修士 2年	博士 1年	博士 2年	博士 3年	合計
各授業単位で特に成績優秀と 担当者が認めた者	春	2	0	0	0	0	2
	秋	2	0	0	0	0	2
	冬	2	0	0	0	0	2
資格試験等に挑戦し、本学の 声価を高めた者	春	0	0	0	0	0	0
	秋	0	0	0	0	0	0
	冬	0	0	0	0	0	0
教育補助員として、著しい功 績があった者	春	0	4	0	0	0	4
	秋	0	0	0	0	0	0
	冬	1	4	0	0	1	6
専攻内で学位論文の内容が優 秀と認められた者	春	0	0	0	0	0	0
	秋	0	0	0	0	0	0
	冬	0	3	0	0	0	3
学協会において、すぐれた研 究成果を発表した者	春	0	0	0	0	0	0
	秋	7	5	0	4	0	16
	冬	1	15	0	0	1	17
学協会誌等に、すぐれた研究 論文を発表した者	春	0	0	0	0	0	0
	秋	1	3	0	1	0	5
	冬	0	7	0	0	1	8
学生生活において、本学の名 誉を高めた者	春	0	0	0	0	0	0
	秋	0	0	0	0	0	0
	冬	1	3	0	0	0	4
合計		17	44	0	5	3	69

表5 学長表彰項目

学部	1. 4年間を通じて特に優秀な成果を修めた者 (1) 学長褒賞を18回以上授賞した者 (2) 各学科でQPAポイントが最も優秀な者 (3) 課外活動で特に顕著な活躍をした者
	2. 単年度で特に優秀な成果を修めた者 (1) 学生生活で本学の名声を高めた者
大学院	1. 2年間を通じて特に優秀な成果を修めた者
	2. 単年度で特に優秀な成果を修めた者

表4 褒賞項目と学年別授賞件数 (H16)

(1) 学部

褒賞項目 (学部)	学期	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
卒業時の成績評価で修得科目の80%以上の 科目にわたりA以上の評価を得た者	春	0	0	0	0	0
	秋	0	0	0	0	0
	冬	0	0	0	124	124
1学期間に5科目以上修得し、その成績評 価において、修得科目の80%以上の科目に わたりA以上の評価を得た者	春	2	171	209	0	382
	秋	294	214	293	0	801
	冬	164	179	710	1	1054
各授業科目で特に成績優秀と担当者が認め た者	春	130	227	134	12	503
	秋	237	134	161	25	557
	冬	207	183	91	103	584
成績向上が顕著な者	春	0	0	1	1	2
	秋	1	4	1	0	6
	冬	7	2	2	3	14
講義・実験・実習・演習・レポート等の取 り組み方が良く他の模範となる者	春	91	39	33	0	163
	秋	37	136	76	0	249
	冬	185	86	33	79	383
資格を取得する等、自己啓発に精励した者	春	3	12	17	1	33
	秋	11	0	5	2	18
	冬	11	17	23	13	64
コンテスト等において、優秀な成果をあげ て本学の声価を高めた者	春	0	0	0	3	3
	秋	0	0	0	0	0
	冬	0	6	0	4	10
学友会活動(個々の行事を含む)等で特に 貢献のあった者	春	0	0	0	0	0
	秋	26	25	26	14	91
	冬	0	0	0	0	0
課外活動で全国大会に出場する等顕著な成 績をおさめた者	春	2	3	5	3	13
	秋	7	10	9	6	32
	冬	0	1	6	10	17
4年間を通じてクラブに在籍し、そのクラ ブに特に貢献のあった者	春	0	0	0	0	0
	秋	0	0	0	0	0
	冬	0	0	1	89	90
本学学生として模範的行為のあった者	春	0	0	1	0	1
	秋	0	1	7	5	13
	冬	63	68	54	28	213
学生生活において、本学の名声を高めた者	春	0	0	0	0	0
	秋	1	0	1	1	3
	冬	0	0	0	0	0
心身・環境等の悪条件に打ち勝ち成業した 者	春	0	0	0	0	0
	秋	0	0	0	0	0
	冬	0	0	0	0	0
合計		1479	1518	1899	527	5423

六 学長表彰の推薦と賞状引渡しについて

学長表彰は、本学の名声を高めた各種大会やコンテストにおいて優秀な成果をおさめた学生には全教員が出席する全学部の席上に学生を招き、タイムリーに学長より授与する。また、学長褒賞を一八回以上授賞した学生、各学科でQPAポイントが最も優秀な学生およびクラブ活動で特に顕著な活躍をした学生には、学部卒業式および大学院学位授与式において全学生の前で学長より授与される。

七 学長表彰授与状況

表6に学長表彰の年度別授賞人数を示す。これらの実績の中で、学長褒賞を四年間に一八回以上授賞した人数が、平成一六年度に顕著に向上している点が注目される。

表6 年度別授賞人数

学期	延べ人数 (人)			
	H13	H14	H15	H16
学長褒賞を18回以上授賞した者	2	3	1	8
各学科でQPAポイントが最も優秀な者	11	11	13	13
課外活動で特に顕著な活躍をした者	3	5	13	4
学生生活で本学の名声を高めた者	0	14	0	3
合計人数	16	33	27	28

八 終わりに

この制度は昭和五九年に発足したが、近年になって表彰・褒賞される学生数は増加してきている。これは、一見クールに見える現代の学生であっても、褒められることによって教育・研究をはじめとして学生生活に意欲を持つて取り組んでいることを示す証である。金沢工業大学は建学綱領の筆頭に掲げる「人間形成」を実りあるものとすべく着実な歩みを進めているが、本学が標榜する人間力の基盤を成す学生の自主性、自発性を高めるために褒めの教育は、今後も大きな役割を果たしていくものと考えられる。